

## わがクラスの学級会

昭和四十八年度 六年男児

ぼくたちのクラスでは、今まで何度も学級会をやり、そのたびに色々なことを決めてきた。一回でスパッと決まる場合。二時間にもわたる場合。時には同じ議題が数週間後に再び登場することもあった。一般的に言って、楽しい行事の相談などは、意見も活発に出たが、日常の生活態度についての話し合いになると、みんなだまってしまふことが多かった。

我がクラスの学級会の良い点は、建設的な意見がよく出るといふことだ。特に実行方法などは、いかにもその提案者の考えるような、独特なものがたくさん出てきたように思う。発言中つまったりすると、「助けます。」と言って同じ意見の人がすぐに続けてくれることである。自信がなくて発言するのは困るが、つまった時など助けでもらえるという気持ちで話すと、ぼくなども案外すらすらと意見が言えるので、良いことだと思う。また、委員会も

班ごとで交代するので、全員が議長や書記を経験することが出来る。このことは学級会の運営という点から見れば支障はあるが、将来のためには良いことだと思う。

次に悪い点は、前に建設的な意見がよく出ると書いたが、それが、出す人はいつも決まっているということだ。だいたいのは、学級会に参加しているのだが、いつの会でも、関係ないと思っている人が二、三人はいる。そういう人に限って、後で決められた事を破るので運営委員だけでなく、みんなが注意していかなければいけないと思う。悪い点の第二は何かを決める場合、少数の意見に引っぱられやすいということである。日頃良い意見を言う人が何か発言すると、すぐその通りに決まってしまう。同じきまるにしても、いろいろ意見を戦わせた後に決まるのであれば良いが、すぐ「賛成」というのでは、せっかくの学級会が台なしだと思う。また一度決まったことが後でひっくり返ることがあるので、やはり話し合いは、ルールを守り、断固とした信念を持つことが大切だと思う。

さてかんじんの実行の方はどうだろう。「朝自習を静か

にしよう」「校舎、校具を大切にしよう」は、あまりよく守られていないようだ。逆に「楽しい男女の交際」、「歳末助け合い」についてなどは大変よく実行されたと思う。

この一年間ぼくたちは、学級として、個人として大きく成長したと思う。学級としては、陰口を言うことが少なくなり、一人一人が学級内のことは自分たちで解決しているという気持ちになったし、ぼく個人としては、議長やその他の役を通して、人前でも積極的に発言したり、みんなをリードすることができるようになった。これからも、「クラス全員による、クラス全体のための学級会」をめざし、クラスのみんなと共に頑張っていきたいと思う。